

平成30年度 学校関係者評価報告書

2019年6月14日

学校関係者評価委員会
ホンダテクニカルカレッジ関西

■ 学校関係者評価

学校関係者評価とは、学校の自己評価の客観性・透明性を高め、学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ることを目的としています。具体的には、学校が策定した重点目標、計画の実施について自己評価を行い、その結果を踏まえ、今後の取組方針などについて、学校が選定した学校関係者評価委員に説明し、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、今後の方向性等に対する助言、評価等を頂くことで学校改善につなげることを目指しています。

■ 学校関係者評価委員会 開催概要

関西日時： 第1回 2019年6月14日 平成30年度自己評価に基づく関係者評価
第2回 2019年11月開催予定 令和元年度前期施策進捗報告に対する意見・進言

開催場所： ホンダ テクニカル カレッジ 関西

委員長： 松岡 孝 様 本田技研工業株式会社 日本本部 地域人事部 主事

委員： 舘 久忠 様 ホンダオートボディー株式会社 生産部 取締役 生産部長
辻井 茂満 様 株式会社 ホンダカーズ大阪 事業管理部 部長 執行役員
河井 政昭 様 株式会社 ホンダ泉州販売 営業部 サービス課 課長
梶原 次昭 様 ホンダ テクニカル カレッジ 関西 後援会 会長

学校側 出席者： 五月女 浩 校長
寺尾 典篤 教務部長 兼 一級自動車整備研究科 科長
木村 泰之 教務部 自動車研究開発科 科長
白石 拓三 教務部 自動車整備科 科長 兼 自動車整備留学生科 科長
本多 章浩 教頭 兼 学務室 室長 (本委員会事務局)

■ 評価プロセス (第一回委員会)

- 委員会開催前に学校側より委員の方々に平成30年度自己点検・自己評価報告書をお送りし、ご意見・ご質問をいただきました。
- 委員会では、学校側より学園概要、教育内容、令和元年度の重点課題、重点目標を説明し、まず委員会での課題共有を図りました。その後、平成30年度事故点検・自己評価報告書の内容説明及び事前にいただきましたご意見・ご質問への回答・コメントをさせていただき、質疑応答を通して意見交換を行い、更に詳細に課題認識を深めました
- そして、学校関係者評価委員会としてこの最終評価をまとめました。以下に、基準ごとの評価結果を報告致します。

■ 評価結果

基準 1 : 教育理念・目的・育成人材像等

- 教育理念や育成方針が創立以来一貫しており、設備・技術などの優位性を活かして学生に実践的な教育や充実した学園生活を提供している。その状況をホームページ等で積極的に外部に発信することで、学生・保護者に選ばれる学園になるものとする。自動車業界が大転換期を迎える厳しい環境変化の中、今後もホンダ学園の強みを十分に発揮され、社会環境の変化に対する柔軟な対応をお願いします。

基準 2 : 学校運営

- 運営方針に従って全教職員が一丸となり、明確化された事業計画達成に向けて取り組まれている。また、重点項目に対する具体的な取り組みや課題に対するリスク対応も図られている。

基準 3 : 教育活動

- 教育活動は様々な観点からの分析により、問題点や課題等を把握し、随時カリキュラムの改善対応する取組みが行われている。また、将来的な環境変化に向けた検討が行われ、その準備が進められている。
- 優秀な技術者を輩出するために、教員のスキルアップも継続して行い、より質の高い教育を提供されることを期待します。

基準 4 : 教育成果

- 就職内定率及び一級・二級自動車整備士資格の100%合格を目指し、引き続き学生指導をお願いします。
- 学生が多様化している状況ですが、個々に合わせた学生指導で退学者を削減して下さい。
- 一級整備士合格率が向上したことは評価出来ます。全員合格を目指して、試験対策の更なる研究と教員の一級資格取得の推進もお願いします。

基準 5 : 学生支援

- 新設された留学生科を含めた留学生増加への対応は取れており、受験者全員が三級整備士資格を取得するなど、成果が現れており、高く評価できます。
- 奨学金制度は有効に活用されている。より多くの学生が活用できるように、今後も保護者のニーズや社会環境の変化に対応できる制度として下さい。
- 寮は遠隔地の学生にとって必要な施設です。入寮者のCSを高め、有効活用をお願いします。
- 同好会活動では協調性やコミュニケーション能力がより一層向上されると思いますので、さらなる活動強化を図って下さい。

基準 6 : 教育環境

- Hondaや関連メーカー様の協力を得て、学内にて企業様を招いた技術講習会を行うなど、学生に多くの経験を学ぶ機会が提供されている。また、教育施設や教材車をはじめ、企業実習やインターンシップ教育等、充実した教育環境が整っており、最新の車両/設備等を活用した実践的な教育が行われている。
- 防災体制も整備されており、防災訓練などを通じて有事の際の対応を定着させて下さい。

基準 7 : 学生募集と受け入れ

- 少子高齢化や若者の車離れなど、学生募集にとって厳しい状況は理解します。そのような状況下、整備士需要の高まるHondaグループと連携をさらに強化していくことは有効と考えます。
- 学生募集にはより多くの学生に学校を知ってもらう必要があります。ホームページやSNSなどをさらに有効活用して下さい。また、女子学生獲得に向けたさらに踏み込んだ施策検討をお願いします。
- 留学生を積極的に受け入れていることは海外での認知度向上にもつながると思いますので、受け入れの苦労はあると思いますが、さらなる強化をお願いします。

基準 8 : 財務

- 会計処理は正確に行われている。学校財務体質を改善するための検討をお願いします。

基準 9：法令等の遵守

- 現在、コンプライアンスは世間的にとっても重要視されており、各種法令、設置基準等を遵守するための啓発活動を継続して下さい。

基準 10：社会貢献

- 市内清掃のボランティアや献血活動など学校としての取り組みを継続して行うなど適切に運営されている。

■ まとめ

- 自己点検・自己評価報告書や委員会で学園概要、教育内容、令和元年度の重点課題、重点目標などの確認を行ない、前期のレビューや環境認識を含めて重点課題を明確にして取り組まれていることを確認しました。今年度、重点課題としている事項への対応については確実な実績・成果につなげるため、きめ細かな進捗管理を行なって取り組み強化をお願いします。
- 今後も、ホンダ学園の強みを十分に活かし、自動車業界の変革にも柔軟に対応し、「選ばれる学園の確立」に取り組んで下さい。